



大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか 令和7年度 事業報告

令和8年度大阪府障がい者自立支援協議会
発達障がい児者支援体制整備検討部会
成人ワーキンググループ

令和8年8月20日（木）
大阪府発達障がい者支援センター
アクトおおさか センター長 岡あゆみ



大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか

アクトおおさかは、発達障害者支援法に基づき大阪府より社会福祉法人北摂杉の子会が受託して、発達障害者支援センター事業を実施しています

- ◆ H14年6月に開設
- ◆ 職員配置（常勤支援員5名）：臨床心理士、公認心理師、社会福祉士など

発達障害者支援センターとは：発達障害情報・支援センターHPより
発達障害児（者）とその家族が豊かな地域生活を送れるように、保健、医療、福祉、教育、労働などの関係機関と連携し、地域における総合的な支援ネットワークを構築しながら、発達障害児（者）とその家族からのさまざまな相談に応じ、指導と助言を行っています。ただし、人口規模、面積、交通アクセス、既存の地域資源の有無や自治体内の発達障害者支援体制の整備状況などによって、各センターの事業内容には地域性があります。

事業内容：直接支援と間接支援の両輪

直接支援

発達障がいのある方やご家族から直接相談を受けている

間接支援

発達障がいのある方やご家族を支援している支援者をサポート & 発達障がいのある方が暮らしやすい地域づくり

家族支援の充実：ペアレント・メンター事業

関係機関とのネットワーク構築：連絡協議会など

普及・啓発：府民や支援者対象の公開講座・研修

支援体制の構築や人材育成：コンサルテーション事業

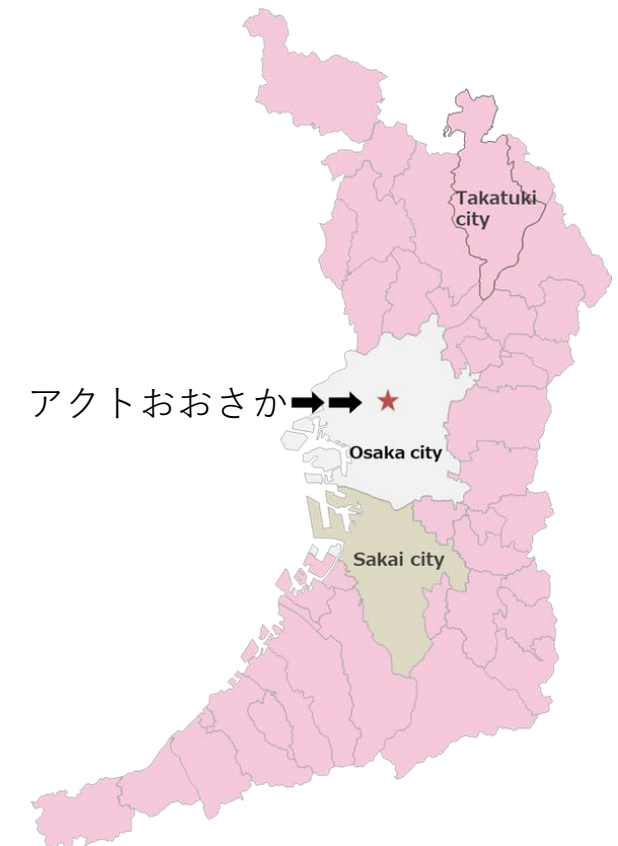
発達障がい者地域支援力向上事業（R3～）

アクトおおさかのミッション：

発達障がいのある方々が（大阪府のどこに住んでいても）身近な地域で、生涯にわたり自分らしく豊かに暮らしていける社会を目指して、発達障がいの理解や支援方法の普及とライフステージを通じた一貫した支援体制の構築を行う

支援対象者の方：お住まいの市町村で窓口が変わります

大阪市発達障がい者支援センター エルムおおさか	大阪市内在住の方
堺市発達障害者支援センター アプリコット堺	堺市内在住の方
大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか	上記以外の大阪府 内在住の方





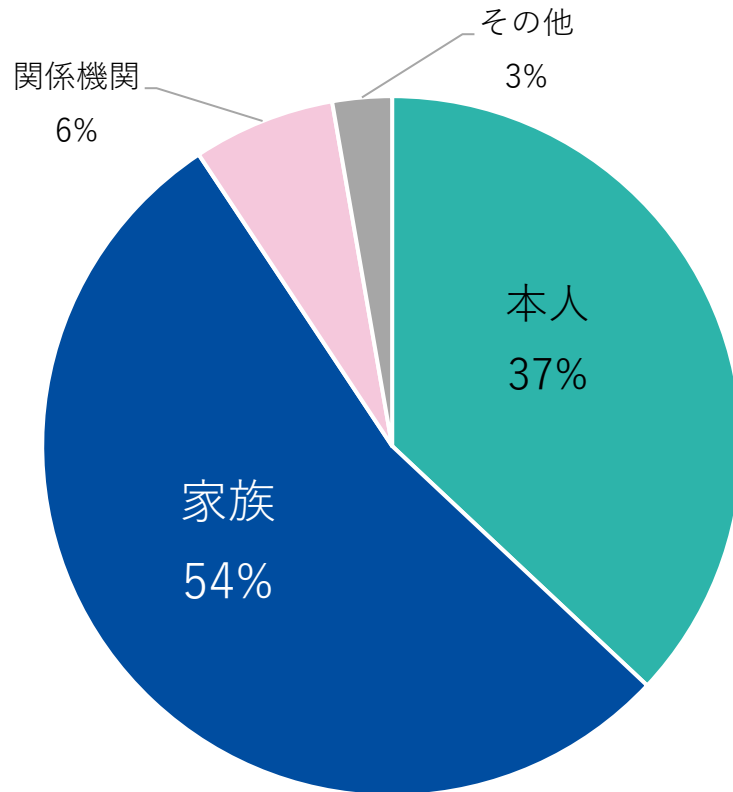
直接支援 (R7年度)

実績：支援**実**数 1019人、支援**延**人数 1506人

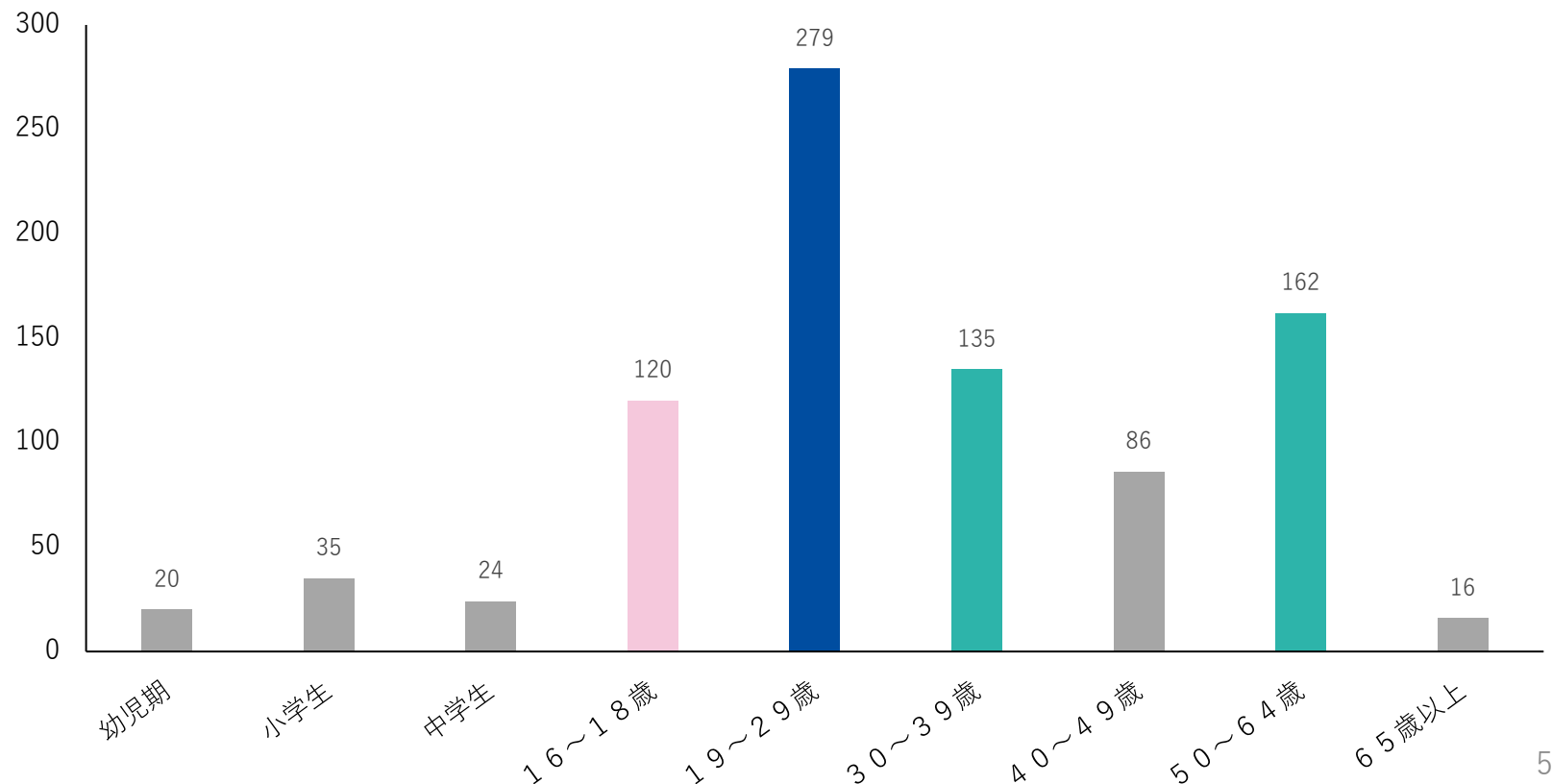
初めにセンターに相談される方（相談依頼者）：家族が最も多く、約半数を占める

支援の対象となる方（相談対象者）の年齢：19歳～29歳が最も多く、次いで50歳～64歳、30～39歳の順に多い。16～18歳の方に関する相談も増加している

R7年度 相談依頼者 実数



R7年度 相談対象者 年齢別 実数（不明除く）

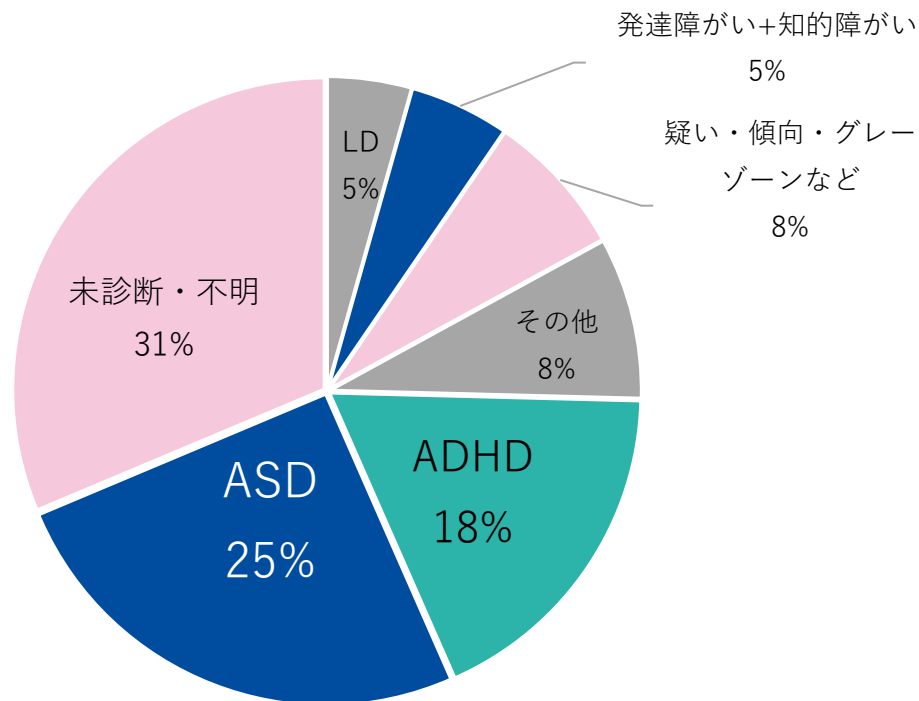


直接支援 (R7年度)

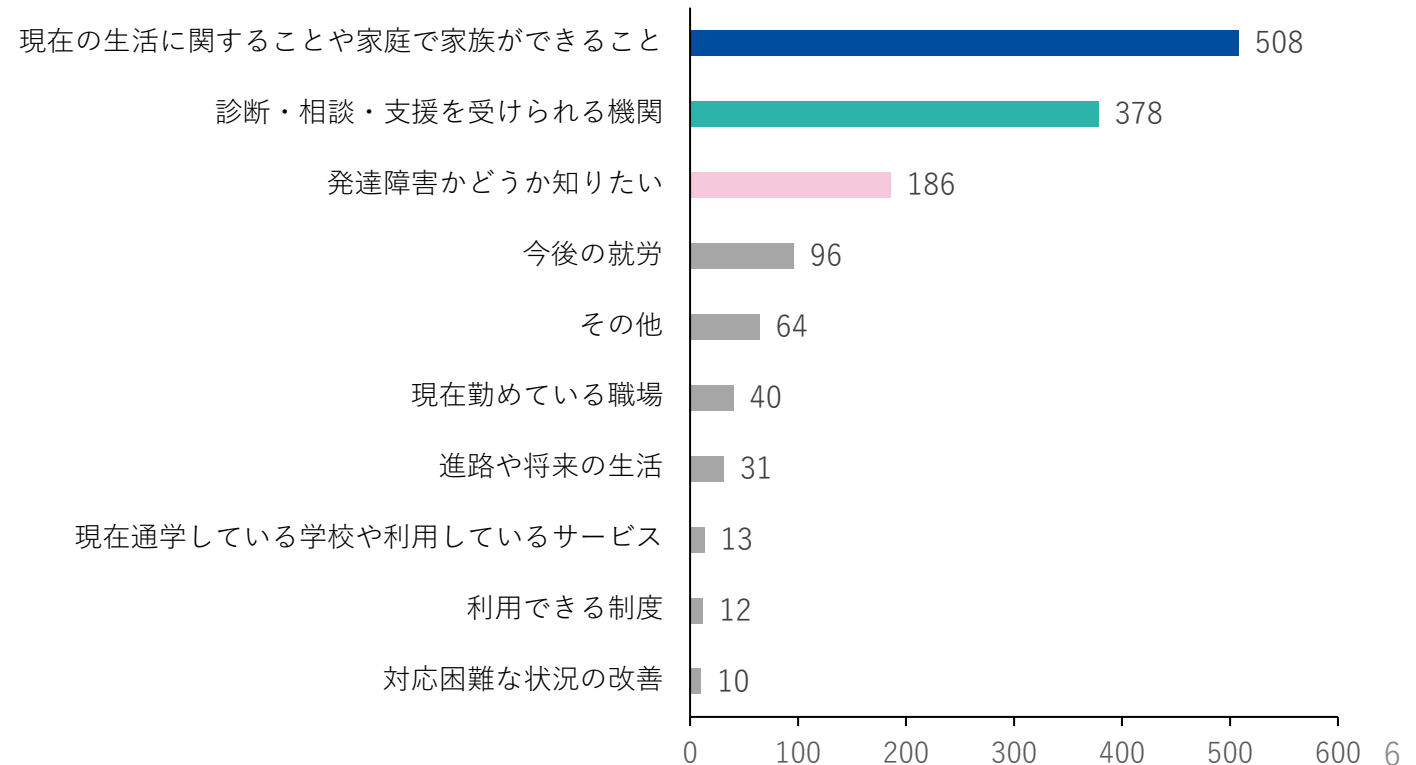
相談対象者障がい種別：診断がある場合は、自閉スペクトラム症の方が最も多い。また、未診断の方も約3割を占める

相談内容：相談内容は、「現在の生活のことやご家族ができるサポート」、「診断・相談・支援を受けられる機関の情報提供」を希望されることが多い

R7年度 相談対象者 障がい種別
(実数)



R7年度 相談内容（複数可、延数）



間接支援：普及啓発（R7年度公開講座）



■支援者対象公開講座（参加人数：223名）

発達障がいのある女性から、ご自身の発達障がい特性に合った工夫を考えながら試行錯誤されてこられたエピソードや、発達障がいのある女性ならではの生きづらさ、支援者に望むことなどについて、ご講演いただいた。

参加者の感想：「これまで本人のためを思って先回りの支援をしていたが、本人の決定や選択を尊重することの重要性に気づいた」「『価値判断するのは私』心にぶっ刺さりました。よかれと思って…が決して絶対その人のためだとは限らない。まず相手を知ること、困っていることを知ることを第一に考え、一緒に考えていける支援者になりたい」という声が聞かれた。

⇒ 当事者の発信は貴重で、学ぶことは多い。

⇒ 自身の経験に基づく率直な支援への疑問、しんどくなった支援や支援者に期待することを共有していただいたことで、「支援とは誰のためのものか？」という本質に立ち返る機会を多くの参加者がもてた。



■府民対象公開講座（参加人数：232名）

大正大学名誉教授 近藤直司先生に、発達障がい特性とひきこもりとの関連やアイデンティティ形成などについてご講演いただいた。

参加者の感想：「本人が安心して過ごせる環境づくりや肯定的な自分らしさを一緒に見つけることを明日から実践したい」「親の「イライラ」と「ハラハラ」に気づくことができた。今の自分の気持ちを冷静に受けとめられることで、日常の生活が楽になりそうです」という声が聞かれた。

R7年度講師派遣等について

- 関係機関および地域住民への普及啓発及び研修の実施回数 30回
- うち、外部機関が主催する研修への講師派遣件数 15件

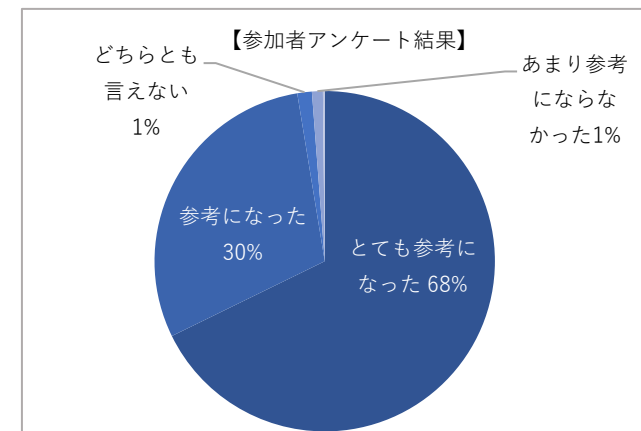
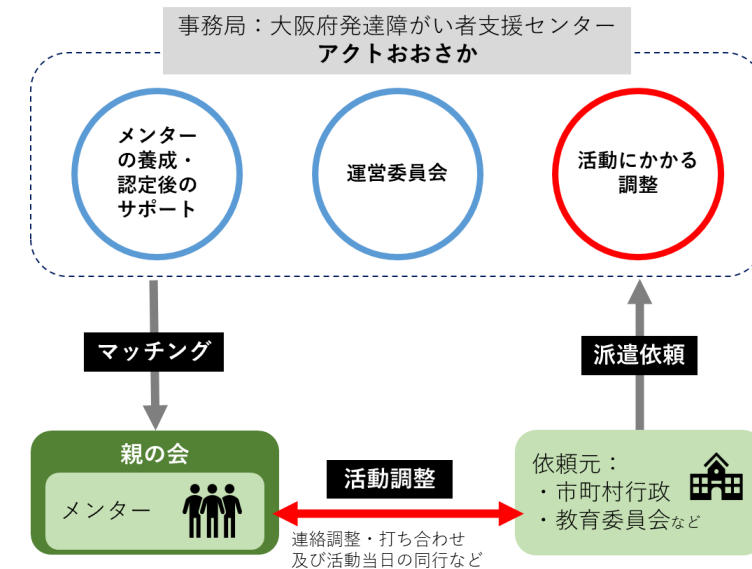
- 自衛隊所属の就業相談担当者対象の研修（自衛隊援護協会）
- 刑務所出所者等に対する福祉支援に係る協議会での研修（大阪矯正管区）
- 大阪府立学校人権教育研究会での研修（大阪府立学校人権教育研究会）
- 日常生活自立支援事業に携わる職員対象の研修（大阪府社会福祉協議会）
- 公共職業安定所職員対象の研修（大阪労働局）
- 公共職業安定所に勤務する新任の障害者業務担当者対象の研修（大阪労働局）
等

※（）内は依頼元

➡障がい福祉分野以外からも発達障がいについて学びたいというニーズは増加しており、研修対象者の幅も広がっている

大阪府ペアレント・メンター事業

- 発達障がいのあるお子さんを育ててこられた先輩保護者であるペアレント・メンターが、子育てに関する経験談の紹介や、親目線での情報提供等の活動を通して、似た悩み等を抱えるご家族をサポートしている
- 依頼件数：26件
- 依頼元：市町村子ども課からの依頼が最も多く、次いで障がい福祉課、教育委員会の順であった
- 参加者の評判は高く、メンターの話は、同じ家族という立場からの共感性と説得力があるため、参加した家族にとって将来の見通しを持つことや、不安や孤独感の軽減につながっていると考えられる



〈小学校の保護者との交流会〉

実績（H27～R7）

- ・ 依頼件数と参加者数の増加
- ・ 大阪府内41市町村中、28市町村が活用
- ・ 多くの市町村が継続して依頼

依頼件数の推移

3件→約30件（年間）
10倍増



参加人数の推移

78人→1,409人（年間）
18倍増

普及率
68%



リピート率
80%以上



家族と家族会をつなぐ橋渡しの役割

- ・ 大阪府ペアレント・メンター事業を通して、ご家族が初めて先輩保護者の経験談を聞き、「親の会」を知るきっかけとなる
- ・ 支援者が親の会の情報を家族に提供する機会にもなる



一人で悩む家族

「情報が多すぎて不安」、「自分だけが悩んでいる気がする」、支援者も「家族会の情報を知らない」



メンター事業

同じ様な経験をした先輩の経験談を聞ける場、親同士のつながりの大切さに気づいてもらえる場



家族会

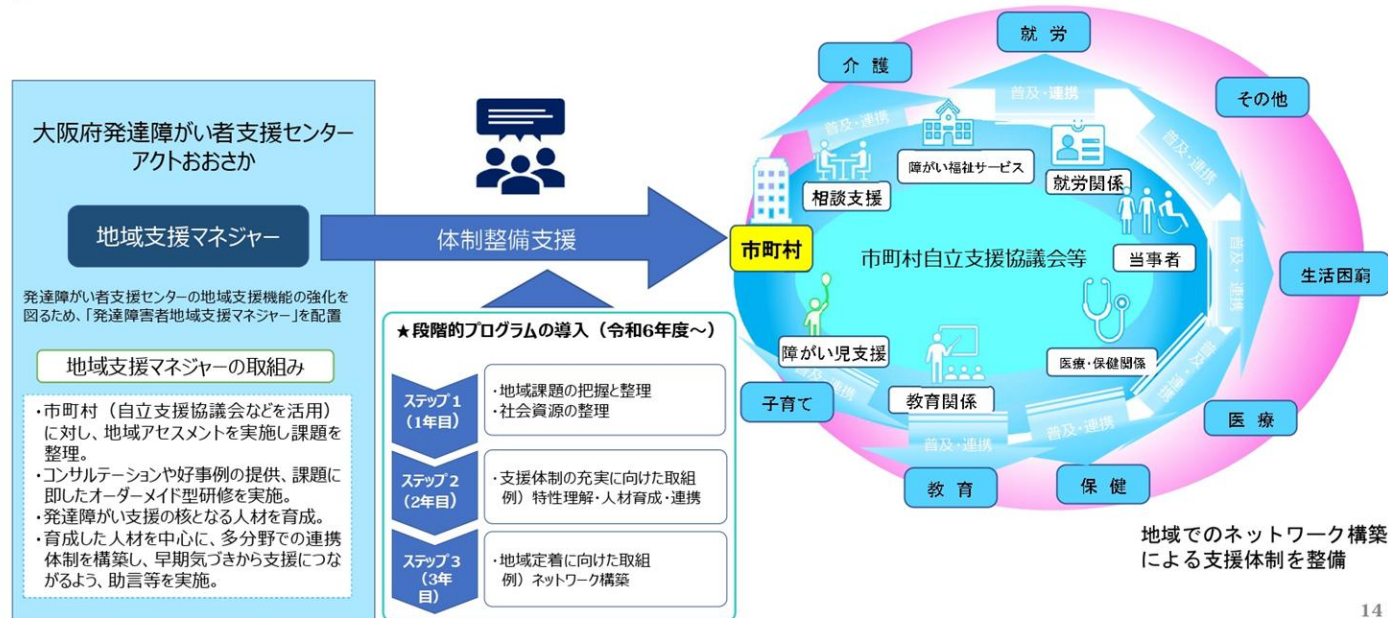
同じような悩みをもつ仲間が集まる場所の提供

発達障がい者地域支援力向上事業

障がい福祉に留まらない各関連分野での発達障がい児者の支援力向上・支援体制整備を目指す

◆ 発達障がい者地域支援力向上事業のイメージ

発達障がい児者のライフステージに対応する一貫した支援を行うため、障がい福祉に留まらない各関連分野での、支援力向上・支援体制整備をめざす。



1年目

- ・ Q-SACCSを活用した地域アセスメントの実施
- ・ つなぎを含めた社会資源を見える化することで、強みと課題を整理・共有

2年目

- ・ Q-SACCSをベースに、支援体制の充実に向けた取り組み
例：人材育成、連携強化など

3年目

- ・ 地域定着に向けた取り組み
例：地域事情に即した人材育成のシステムとネットワークのシステムづくりなど

3年間連続でコンサルテーションに入ること、終了後も市町村が中心となり発達障がいの支援体制の向上を検討できる体制が残るようにサポートしている

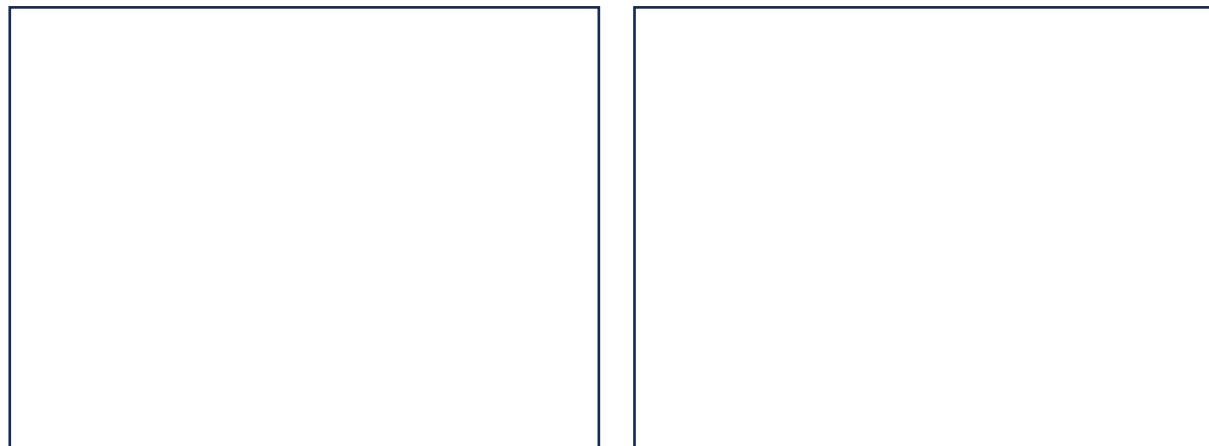
向上事業を通した取り組み例

- 官民共同で自分たちの地域の発達障がい児者支援の強みと課題を整理
- 通所支援事業所やグループホームの職員を対象とした人材育成のための研修
- 教育と福祉の合同連続研修（障がい特性、アセスメント、家族支援を学び、グループワークで顔の見える関係づくり）
- 児童期と成人期の支援者の合同研修で、ライフステージをつなぐための連携強化
- 発達障がい児に特化した支援情報パンフレットの作成／関係機関間で情報を共有するための「情報共有シート」の作成



向上事業活用市町の横のつながりをつくるために、情報交換会を開催

- 「他市の取り組みを参考にしたい」という現場からのニーズや、市町村行政が主体性を持って体制整備を継続するためには横の繋がりが必要であることを踏まえ、「Q-SACCS情報交換会 in OSAKA」を開催
- 当日は各市の課題や取り組みを共有するだけでなく、府域共通の課題を検討する機会にもなった。自市のみでは八方塞がりになりがちな課題について、成功例と難航例の双方が互いに質問し合うことで、「なぜうまくいかないのか」「どうしてできたのか」を客観的に振り返ることができ、より幅広い視点で考えることができた
- こども家庭庁の発達障害児支援専門官にも参加していただき、国の施策等の情報提供とともに、各市町村取り組みに対して、今後のヒントとなる貴重なアドバイスを受けた



※Q-SACCS（発達障害の地域支援システムの簡易構造評価）：
地域における発達障がい児者の支援体制を分析・点検するためのツール



令和8年度公開講座の予定

支援者
対象

府民
対象

大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか 令和8年度支援者対象公開講座

医療者の発達障がい児の見立て

～医療との連携と環境調整のヒント～

参加費
無料



日時 2026年8月19日(水)
14:00-16:00 (13:30から受付)

会場 大阪産業創造館4階 イベントホール

講師 石崎 優子 先生

関西医科大学総合医療センター小児科部長

石崎先生は、小児科医として心身症、神経発達症、小児保健を専門とされています。
また、小児科と心身医学科の指導医資格を持つ臨床医としても活躍されています。

発達障がいのあるお子さんへの支援においては、生活の中で生じている困りごとに気づき、ご本人の特性を理解するとともに環境を調整していく視点が重要とされています。また、支援現場では「医療の見立てをどのように支援に活かすのか」「医療とどのように連携すればよいのか」といった悩みも多く聞かれます。本講座では、小児科医の石崎優子先生をお招きし、医療者としてどのように発達障がいのあるお子さんの見立てを行い、支援されているのかについてお話しいただきます。あわせて、医療と教育・福祉等の関係機関との連携の視点についても学び、日々の実践に活かしていただく機会にしたいと考えています。

対象 支援者（教育関係者含む） 250名

申込 申込QRコードもしくはアクトおおさかHPからお申込み
方法 ください。アクトおおさかHP: <https://act-osaka.org/>

申込QRコード



申込締切 2026年8月12日(水)

* 定員に達した場合、締切日より先に申込み終了となる場合がございます。
* 迷惑メール防止の設定をしている場合は、ドメイン (@google.com) の受信設定をしてください。
* 申込後上記ドメインのアドレスより自動返信メールにて申込内容のコピーが届きましたら、お申し込みが完了しております。メールが届かない場合はお問い合わせください。

お問い合わせ先

大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか
〒540-0026 大阪市中央区本町1-2-13 谷四ぼんらいビル10階A
TEL: 06-6966-1313 (担当: 奥野)



発達障がいのある人が 「親なきあと」も安心して暮らす ために、今からできること

発達障がいのある方の「親なきあと」は、住まいやお金、仕事など考えるべきことが多く、イメージも湧きにくいテーマです。本講座では渡部伸先生を招き、必要な制度や今からできる準備について学びます。ご本人が地域で自分らしく暮らし続けるために、将来のことを一緒に考えてみませんか？

大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか 主催 公開講座

講座

10/7(水)
12:30～15:00
12:00から受付

講師: 「親なきあと」相談室/
渡部行政書士社労士事務所 渡部 伸氏



障害の子をもつ親や家族に向けて「親なきあと」相談室を主宰。著作、講演など幅広く活動中。
著書に『Q&Aと事例でわかる障害のある子・引きこもりの子の将来のお金と生活』など。

家族会フェア

ブース: 大阪府ペアレント・メンター事業 協力9団体

ネットの情報だけでは得られない、同じ悩みを持つ家族だからこそ分り合える安心があります。まずは情報収集からしてみませんか？ ※詳しくは裏面をご確認ください。

会場 ドーンセンター 7階 ホール

定員 450名(先着順)

対象 当事者、ご家族、支援者
どなたでもご参加いただけます

※ 10月1日(定員に達し次第締め切ります)

お申し込み・お問い合わせ

QRコードまたはアクトおおさかの
ホームページからお申し込みください
(<https://act-osaka.org/>)

TEL: 06-6966-1313 (アクトおおさか ニシガキ)

* 迷惑メール防止の設定をしている場合は、ドメイン (@google.com) の受信設定をしてください。
* 申込後上記ドメインのアドレスより自動返信メールにて申込内容のコピーが届きましたら、お申し込みが完了しております。メールが届かない場合はお問い合わせください。

大阪府立男女共同参画・青少年センター
(ドーンセンター)

大阪市中央区大手前1丁目3-4

天満橋駅から徒歩350m



つながりを大切に 家族会フェア

こんな
お悩み
ありませんか？

インターネット
の情報って
正しいの？

他の家庭は
どうしてる？

身近な地域に
ある家族会が
知りたい

悩みを
聞いてほしい



10.7(水)
講座の前後で開催します

家族も支援者も大歓迎

大阪府内にある発達障がいの家族会を知るチャンス

大阪府ペアレント・メンター事業協力団体

9の家族会が紹介
ブースを出します

[会場] ドーンセンター
1階パフォーマンススペース
[日付] 2026年10月7日
[時間] 第1部 11:00～12:30
第2部 15:00～16:00